

# 京都女子大学図書活スタッフ4年間の活動報告

図書活スタッフ代表 池添 栞

## 1. 図書活スタッフとは

### 1 発足の経緯及び活動方針

京都女子大学図書館学生サポートボランティア「図書館『図書活』学生スタッフ」（以下、図書活スタッフとする）は、平成24年度に発足した。きっかけは、本学図書館が「図書館の利用についてのアンケート」を実施したところ、学生から「何らかの形で図書館と関わりたい」という声が多く寄せられたからである。発足時のスタッフは49名。以降、平成25年度は35名、平成26年度は40名、そして平成27年度は44名の京女生が図書活スタッフとして登録している。

登録は半期ごとであり、年に2回登録継続の手続きをしている。また、京女生を対象とした新スタッフ募集説明会も、年に2回開催している。その登録の際に必ず伝えているのは「図書活スタッフの活動において、アルバイト料は一切支払われない」ということである。これは図書活スタッフの特長のひとつであり、有志者で構成されているからこそ、主体的な活動が実現していると言っても過言ではない。加えて、登録者の中に司書課程を履修していない学生がいることも、特長のひとつだ。図書活スタッフが目指しているのは高度なサポートではなく、学生目線で図書館利用をサポートすることである。だからこそ専門的な知識のない学生にも登録を呼びかけており、これによって、図書活スタッフは多種多様な視点・手段で活動を展開することが出来ている。

次に活動拠点であるが、図書活スタッフは本学図書館を拠点として活動を展開している。この4年間は比較的学内に向けた活動が多く、第一の活動目的を「本学図書館の利用者、すなわち京都女子大学生の図書館利用をサポートすること」としてきた。また、活動に際して図書活スタッフが心がけていることは、学生と図書館の架け橋となることである。高度な図書館サービスや専門的なレファレンス業務はカウンタースタッフの務めであるため、図書活スタッフは学生だからこそ、そしてボランティア団体だからこそ出来ることを、日々模索している。

また図書活スタッフには「図書活ちゃん」という公式キャラクターが存在することにも触れておきたい（図1）。図書活ちゃんは本をイメージしたオリジナルキャラクターであり、図書館の「図」の旧字体「圖」の略字（くがまえに「ト」の字）にヒントを得てデザインされた。この図書活ちゃんは、図書活スタッフが活動時に着用するジャンパーにもプリントされており、図書活スタッフのシンボルマークでもある。

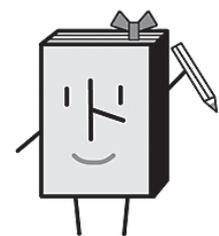


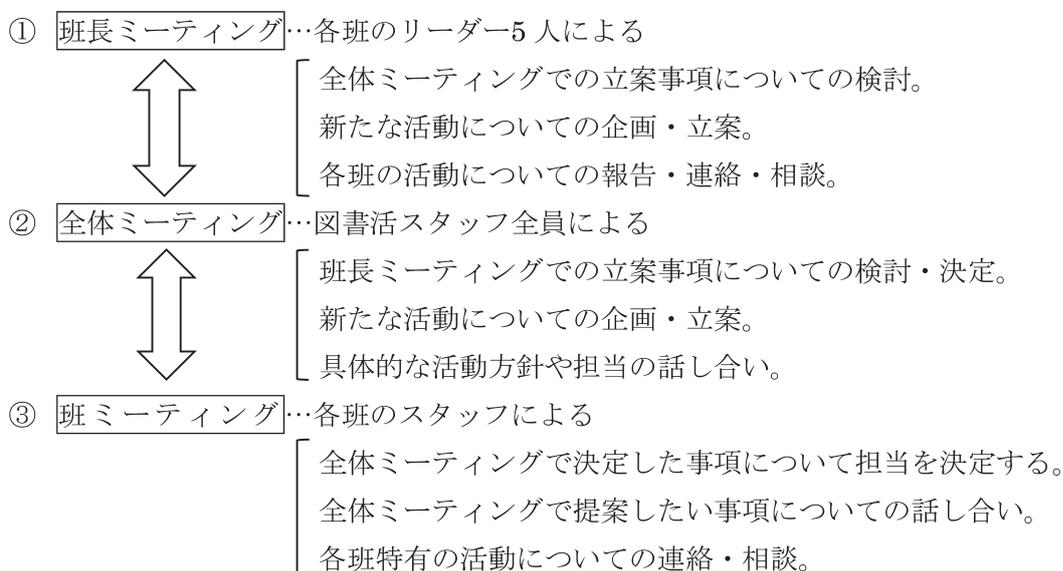
図1

## 2 組織の構成

図書活スタッフとして登録する際、学生には総務班、Web班、広報班、イベント班、TIMES班のいずれかの班に所属してもらっている。主な活動には全員で取り組むのだが、その準備段階において組織が細分化されていた方が良いという考えから、現在は5つの班が設置されている（各班の活動内容は後述）。

代表者については、例年各班からリーダーを1人選出し、その5人の中から1人を選出している。任命は前年度のリーダー同士で話し合い、本人の意向を汲んだ上で行われる。

また図書活スタッフは、活動内容を決定する際は必ずミーティングを行う。しかしスタッフの人数が増加したこともあり、全員の意見をまとめることが難しくなっているのが現状だ。そこで現在は以下のような手順でミーティングを開き、話し合いを進めている。



原則、①～③の手順でミーティングが開かれる。しかし③で出されたアイデアを①で検討したり、②で決定した事項について①で行動計画を立てたりと、実際は状況に応じてさまざまである。私たち図書活スタッフは、このように複数のミーティングを開くことによって、トップダウンとボトムアップ、両者の良さを活かした運営方式を実現している。

## 2. 各班の役割及び活動内容

### 1 総務班

総務班は5つの班を取り纏め、図書活スタッフ全員と連携を取りながら、総括的な活動をしている。具体的には、全体ミーティング時の進行と議事録の作成、活動日程の調整や図書課との打ち合わせ等を担っている。藤花祭の準備期には、説明会への参加や連絡事項の伝達、展示本や掲示物等のデータ管理を行っている。総務班は図書活スタッフの核であるため、ほぼ全て

の活動に関わっている。それ故に、各班の活動について把握している必要があり、また各班のスタッフにサポートしてもらうことが必要不可欠である。

## 2 Web班

Web班は、Web上の広報活動を担当している。現在図書活スタッフが利用している主な媒体はTwitter、ブログ、ブクログであり、活動の宣伝や報告だけでなく、準備段階の様子や図書活スタッフ内での懇親会の様子も発信している。情報発信において、Web、紙面、掲示物の3媒体が利用できる環境が整っているということは、図書活スタッフにとって大変有意義であり、日頃から、この三者を効果的に連動させて情報発信を行っている。

或いは、デスク活動におけるシフト管理もWeb班の担当である。毎月、各スタッフからシフト希望調査表を回収し、翌月のシフト（本館・分館ともに）を作成している。

## 3 広報班

広報班の最も重要な活動は、本学図書館が発行する広報誌「Library News」の一部記事作成である（右図参照）。平成25年度発行の第17号以降、毎年17ページ中の4ページを図書活スタッフが担当し、記事を掲載している。内容の選定から取材・レイアウトまで全てを図書活スタッフで行っており、学生ならではの個性豊かな紙面づくりを心がけている。



## 4 イベント班

イベント班が主体となって行う最も大きな活動は、新入生オリエンテーション及び図書館見学ツアーである。図書活スタッフは、毎年新入生を対象に行われる図書館ガイダンスに参加しており、その場で図書館利用に関する説明と、図書活スタッフのPR活動を行っている。また、ガイダンス後には本学図書館の見学ツアーを開催し、どのような分野の本がどこにあるか、OPACはどのように使うのか、などを説明しながら案内をしている。

## 5 TIMES班

TIMES班は、図書活スタッフが発行している「図書活TIMES」の編集を行っている。発行は年4回程度であり、4年間で創刊号から14号までを発行してきた（次頁参照）。掲載内容は「図書館のお得情報」「図書活スタッフのオススメ本紹介」など、独自に考案したものばかりである。発行した「図書活TIMES」は、図書活スタッフの皆で配布するほか、館内に設置するなどして頒布している。また今後は、PDF化したファイルをブログ等で公開していくことも考えている。

### III. 図書活に新メンバーが増えきした

今年度前期、図書館スタッフは新たなメンバーを求め、**施設37人**になりました!!新スタッフは学部・学科・年生も様々です。そこで、新スタッフの皆さんにインタビューを行いました。新スタッフの年の声を聞いてみましょう(※)※

Q1. 参加しようと思ったきっかけは何ですか?

A 大学で新しいこと知りたかったから(大関1)  
本が好きなから(大関1)  
将来の夢が読書だから(大関1)  
図書館に憧れていたから(大関・大関1)  
友達がいなくて寂しかった(大関2)

Q2. 実際に参加してどうでしたか?

A 先輩が優しくして初々かなな経験で楽しい(大関1)  
やりがいがあり、図書館との距離が縮まった(大関1)  
自分の都合に合わせて無理なく続けられそう(大関1)  
図書館の活用方法を知ることができた(大関5)  
利用者の役に立つことができ、参加してよかった(大関1)

Q3. 今後の成長を教えてください

A より高い図書館にしていきたいため、できる限りのことを精一杯する(大関1)  
自分の話しくなるだけでなく、友達にも伝えていきたい(大関1)  
いろいろな人に図書館スタッフの活動を知ってもらいたい(大関1)  
いろいろな活動に積極的に参加していきたい(大関1)

皆さん、図書館の活動に積極的のようです。これからの活躍がとも楽しみます。  
図書活スタッフは長期にも参加します!!図書館に興味がある貴女!後援の委員会にぜひ参加してみてください(´▽`)

### IV. 図書館からのお知らせ

**本への書きこみは禁止されています!!**

最近、本への書き込みが多いようです...

例えば...

- 勉強しようとするのと同時に本を置き、つい次々とページをめくってしまったり、書き込みだらけになった。
- 友達とおしゃべりしながらページをめくってしまったり、...

...などなど、自分でも気が付かないうちに書いてしまったことありませんか?

でも!

東京図書館にある本は、**あなたの手でもあり、みんなの手でもあります。**  
他の利用者のためにも、本への書き込みはしないように気を付けましょう。  
みんなが気持ちよく利用できる図書館にしていきたいですよ!



目次

- I. 図書活ブログ・フクログの紹介.....p.3
- II. 新・図書館 EIP のそのまで.....p.3-8
- III. 図書館に新メンバーが加入しました.....p.4
- IV. 図書館からのお知らせ.....p.4

第7号  
2016.2発行

#### I. 図書活ブログ・フクログの紹介

図書活スタッフでは、ブログとフクログでスタッフの活動状況やスタッフの紹介など様々な情報を配信しています。

「図書活スタッフのブログ」  
スタッフの活動の様子を紹介しています。  
2014年1月に開設しました。  
今後は、図書活スタッフで企画したイベントや運営の様子も紹介していく予定です。

「フクログ」  
図書活スタッフの活動の様子を紹介しています。  
2014年1月に開設しました。  
今後は、図書活スタッフで企画したイベントや運営の様子も紹介していく予定です。

「新・図書館 EIP のそのまで」  
図書館の電子化の進捗状況や、利用者の利便性を高めるための取り組みについて紹介しています。

「図書館に新メンバーが加入しました」  
新メンバーの紹介や、今後の活動について紹介しています。

## 3. 主な活動内容

### 1 デスク活動

個々の具体的な活動内容に言及する前に、発足当時から続けている「デスク活動」について触れたい。これは図書活スタッフの活動の根幹となる取り組みであり、大切な出発点だ。本学図書館の本館・分館に「図書活デスク」を設け、授業の空き時間に在席し、利用者のサポートを行っている。そのシフト調整、活動の記録等は全て図書活スタッフで管理している。以下、具体的な活動内容として「利用者の質問への対応」と「館内の巡回」について紹介する。

まず「利用者の質問への対応」であるが、これは図書館業務におけるレファレンスサービスと類似する活動だ。探している本の所在を尋ねられることもあれば、OPACの使い方や、請求記号に沿って本を探す方法を尋ねられることもある。対応可能な用件であれば図書活スタッフが自ら対応するが、質問内容が専門的であるなどして回答しかねる場合は、カウンタースタッフに引き継いでいる。図書活スタッフは学生と図書館を繋ぐことが出来る存在であるため、引き継ぎも意味のある活動だと捉えている。

また本年度は、日頃のデスク活動中に受けた質問にヒントを得て「お役立ち情報カード」というものを作成した(次頁図2)。利用者から多く寄せられる質問は「〇〇に関する本を探している」「〇〇の授業でレポートを書くので、何か参考になる本が読みたい」など、授業や課題の参考にする資料に関するものが多い。そこで、本学の学生がどのような資料を勉強に役立てたのか皆で共有したいと考え、本企画を考案した。現在、図2のカードとともに館内にポストを設置し、利用者に情報提供を呼びかけている。カードには書誌的事項のほかに「役に立つ分野」「おススメする理由」などを記入してもらっており、収集したものは館内の掲示板に貼

使える / お借立ち資料 情報カード	
所 属	国文学科 3 年生
資料名	ブックビジネス2.0 ウェブ時代の新しい本の生態系
著 者 名	岡本真、仲俣暁生編著
出版社名	実業之日本社
請求記号	023.04/042
媒 体	(いづれかに○) <input type="checkbox"/> 図書・雑誌・新聞・CD・DVD・VHS・その他 ( )
分 野	出版、図書館、マーケティング
資料の説明	(いづれかに○を添えて詳しく教えてください！) <input type="checkbox"/> 内容、どの程度に役立つか、おススメする理由 ウェブ時代の新しい本の在り方について書かれています。図書館はどう変化するべきか、出版社はこれから生き残るのか、電子書籍の利便性などの影響を及ぼすのか、などについて書かれています。図書館を豊かにしている方ももちろん、出版関係者も書いている方にはおススメです。
ありがとうございました！ 図書活スタッフ	

図 2

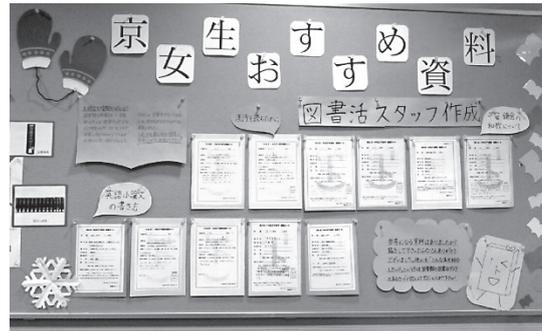


写真 1

り出している（写真1）。本企画によって図書館利用が促進され、また学生に優良な資料の存在を認知してもらいたい。それが本企画の真意である。

続いて「館内の巡回」であるが、こちらは館内を利用者に気持ちよく利用してもらうための取り組みである。自習機の整頓、電気の消灯のほか、電動書架の利用案内や、PCの管理（ログオフの状態にしておくこと）などを行っている。また平成26年度には「消しカスをまとめられるようなゴミ箱が欲しい」という利用者の声を受け、チラシで作った小さなゴミ箱を机上に設置した。このように、利用者に寄り添ったサポートができる点がデスク活動の良さであり、そういった理由から、図書活スタッフはデスク活動を最重要としている。

## 2 年間活動スケジュール及び不定期の活動・その他実績等

図書活スタッフの年間活動スケジュールは次頁の表の通りである。以降、不定期の活動及び過去の活動実績について3点紹介する。

### ① 京都幼稚園での読みがたり

本件は京都幼稚園の園長先生からお話をいただいて実現した活動である。毎回スタッフ3、4人が授業の空き時間を利用して幼稚園を訪問し、園児と絵本を楽しんでいる。本年度は計3回訪問することが出来た。取り組みを始めた当初は「未就学児に絵本を読む」という経験が殆ど無く、思うようにいかないことも多かったが、回数を重ねるにつれて、スタッフ各人が「絵本を通して園児と触れ合う方法」を見つけることができた。絵本の見せ方や読む速さだけでなく、園児の興味を引き出す方法や、コミュニケーションをとりながら絵本を楽しむ方法など、本件を通して得た学びは枚挙にいとまがない。そのような貴重な経験ができたことは、園長先生がお声かけくださったお陰であり、本件は今後も大切に続けていきたいものである。

### ② 龍谷大学ライブラリーサポーターとの交流

龍谷大学ライブラリーサポーターとは、過去2回交流を経ている。第1回の交流は平成26年

	主な活動
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生オリエンテーション (図書館ガイダンス)</li> <li>・図書館見学ツアー</li> <li>・新スタッフ前期募集説明会</li> <li>・司書課程の先生方へご挨拶</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新スタッフ歓迎会</li> <li>・選書委員会、図書館運営委員会の先生方へご挨拶</li> </ul>
6月	・藤花祭 教室展示企画・準備 (～10月まで)
7月	
8月	
9月	・新スタッフ後期募集説明会
10月	・学生選書ツアー実施
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤花祭参加</li> <li>・図書館資料特別展観説明ボランティア</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生選書配架</li> <li>・「Library News」の記事作成</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方との意見交換会</li> <li>・「図書活のあゆみ」発行</li> <li>・司書課程の先生方へご挨拶</li> </ul>
2月	・卒業回生スタッフ送別会
3月	・新入生オリエンテーションの準備

のことであり、先方が図書活スタッフの活動に興味をもってくださったため、本学にお越しいただいて、手作りのPOPや図書活デスク等を紹介させていただいた。第2回の交流時は、私たちが先方へお邪魔させていただき、龍谷大学の新図書館「和顔館」を案内していただいた。図書活スタッフにとって他大学の学生との交流実績は本件のみであり、龍谷大学ライブラリーサポーターの皆さんには交流の度に非常に良い刺激をいただいている。

### ③ 雑誌及び新聞の取材

図書活スタッフが始めてメディアに登場したのは、平成25年のことである。朝日新聞出版より発行された『京都女子大学by AERA まじめに学ぶ。』（平成25年発行、108ページ）に、紹介記事と写真を掲載していただいた。

また平成26年11月14日の朝日新聞教育欄においても、図書活スタッフの活動が紹介された。各大学図書館において学生がどのように活動しているのかを特集した記事であり、図書活スタッフは、学生選書の取り組みについて紹介していただいた。

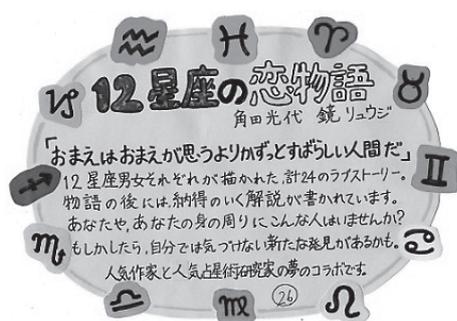


図 3



図 4



図 5

### 3 藤花祭への参加

本学の学園祭である藤花祭には、平成25年度から3年連続で参加している。毎年展示テーマを決め、本学図書館の蔵書の中から選書をして、POP（図3、4）を添えて教室企画展示をしている。初年度の来場者数は645人、次年度は520人、そして本年度は626人と、例年非常に多くの方に楽しんでいただいております。来場者の年齢も、10代から70代まで幅が広い。過去の展示テーマと小カテゴリーは以下の通りである。

平成25年度「世界のあれこれ」…スポーツ、芸術、建築、文学、文化

平成26年度「色—Color—」…オレンジ、青、ピンク、白、緑

平成27年度「図書活紀行」…ファンタジー、和、食べ物、ミステリー、ヨーロッパ

また本年度は、企画展示と併設した「図書活スタッフの気まぐれ読書案内」が非常に人気であった。「恋っていいなあ……と思う本」「大切な人に会いたくなる本」「童心に返れる本」「はじける！青春本」「刺激的な本」と5つのテーマを設定し、図書活スタッフのオススメ本を紹介した（図5）。今まで「本学図書館の資料をいかに利用してもらうか」を考えて活動してきた図書活スタッフにとって、「蔵書」という縛りを取り払って自由に読書案内をするというのは、新たな取り組みであった。

### 4 図書館資料特別展観の説明ボランティア

図書館資料特別展観（以下、展観とする）は、本学図書館が主催している貴重書の展覧会である。図書活スタッフは、その展観において展示資料の説明ボランティアを行っている。藤花祭期間に限った活動ではあるが、発足以来4年間続けてきた。展示内容については、パンフレットを熟読したり、監修されている先生にご説明いただいたりして勉強している。スタッフ同士で説明の練習をすることもしばしばである。しかし実際に現場に出ると、1点の資料について何分もお話しさせていただいたり、展観そのものや大学の歴史についてご質問をいただいたり、時には、展示資料についてこちらが教えていただくようなことも数多くある。

展観には、同世代の学生だけではなく、保護者の方や数十年前の本学卒業生の先輩方など、非常に幅広い世代の方がいらっしゃる。図書活スタッフにとって、世代の離れた方とお話しさせていただく機会は大変貴重であり、毎年多くのことを学ばせていただいている。取り組みを

始めた当初は「正確に説明すること」に気が向いてしまいがちであったが、4年目の現在は「どのようにしたら来場者を楽しんでいただけるか」を念頭において準備に取り組んでいる。その根底にあるのは、来てくださった方に気持ちよく過ごしてもらいたいという思いであり、日頃のデスク活動時の考えに通じるものがあると言えるだろう。

#### 4. おわりに

以上が4年間の活動の概要である。本稿の執筆者は第2期目のスタッフであるため、発足当初の活動について、詳細な報告に至らなかったことが悔やまれる。しかしながら、図書活スタッフが先に述べたような活動を続けて来ることができたのは、図書活スタッフを発足させた先輩方のお陰であり、第1期目の先輩方の努力や行動力の偉大さは、ここに特筆しておきたい。また、本稿には不十分な点が多々あるかと思われるが、何卒ご容赦いただきたい。それらは図書活スタッフの伸びしろと捉えて、是非ともご指導ご鞭撻いただけると幸いである。

#### 5. 謝 辞

私たち図書活スタッフは、POP作成、学生選書ツアー、トークイベントの開催など、先に述べた以外にも数多くの活動に取り組んでおります。しかしそれらの活動の背景には、図書課の職員の皆さんや図書館カウンタースタッフの皆さん、司書課程の先生方をはじめ、沢山の皆さんの支えがあります。この度、こうして図書活スタッフの活動史を残せたことは、ひとえに本学司書課程の山中先生のご厚意のお陰であり、執筆に際してご協力くださったすべての方々に心より感謝申し上げます。未だ組織として至らない点も多いかと思しますので、本学の諸先生方及び職員の皆さまには、今後ご指導賜りたく存じます。また私たち図書活スタッフは、そうした恵まれた活動環境に感謝するとともに、現状に満足することなく、今後もさらに飛躍していきたいと思っております。

最後に、拙稿ではございますが、本稿の存在が図書活スタッフ発展の足がかりになれば幸いです。私たちが活躍することで、図書館が明るくなりますように。